

2.【総会報告】

2000年度総会は、11月8日（水）16時30分より明浜町中央公民館で開催された。安孫子麟会長の挨拶ののち、議長に大野晃、酒井恵真の両会員を選出した。

1、2000年度の事業報告

米沢事務局長より下記の件につき報告があった。

(1) 理事会

第1回	1999. 10. 17	東洋大学
第2回	1999. 12. 11	明治大学駿河台校舎
第3回	2000. 4. 22	明治大学駿河台校舎
第4回	2000. 9. 11	東洋大学
第5回	2000. 11. 7	愛媛県明浜町

(2) 『研究通信』

197号	2000. 1. 20 発行
198号	2000. 5. 22 発行
199号	2000. 10. 1 発行

(3) 会員動向

10月31日	現在
会員数	383名
新入会員	15名
退会会員	26名（学会費長期未納による退会者も含む）
逝去	3名

2、各委員会報告

(1) 国際交流委員会

池上会員（北原委員長の代理）より次のような報告があった。

(1) 国際農村社会学会（IRSA）第10回（2000年）ブラジル大会での次期開催国の決定経緯については、すでに、『研究通信』にも報告したが、次期2004年大会はノルウェーに決定し、日本は、2008年の大会をアジアで開く際の最有力候補として期待されることになった。この際の実行委員会は別途再検討する必要があり、とりあえず、2004年大会開催国の立候補をめざしたIRSA招致実行委員会は解散する。

(2) 同大会で行われた地域組織の会合では、アジア農村社会学会（ARSA）の会合もあり、北原会員が次期会長に選ばれた。前期バンコク大会に継ぐ第2回大会は2003年が予定されており、開催国として日本、インドネシアの名があがった。開

催については、同学会が I R S A 公認の地域組織でないことを考慮して、その参加者の実質にふさわしく、参加経験者ネットワークが実行主体となることがふさわしいと考えられる。もちろん、必要に応じて、村研とも相談することとする。

(注) なお、1999年 A R S A バンコク大会の報告集、Asian Rural Sociology Vol. 1 (1999) が、数十冊、韓国の柳前会長から北原新会長あてに送付されてきました。当大会の参加者には直接送られたはずですが、関心のある会員は北原に申し出てください。

(2) 年報編集委員会

渡辺委員長より、『村研年報・第36集』を発刊し、1階の受付にて販売中との報告があった。

(3) ジャーナル編集委員会

大内委員長より次のような報告があった。

『村研ジャーナル』の第12号(2000年3月20日)と第13号(2000年9月20日)を発行した。

(4) 学会賞選考委員会

吉沢委員長より次のような報告があった。

本年は、著書と論文の2部門で学会賞を選定する最初の年であり、会員からの推薦を期待し、推薦があれば選考委員に査読をお願いする体制を取っていた。しかし残念ながら会員の推薦がなく、本年は該当著書、論文なしという結果になった。来年度を期待しているので、会員皆様のご推薦をお願いしたい。

3、2000年度決算報告および監査報告

米沢事務局長より、2000年度の決算報告があった後、会計監査の小内会員より監査の結果適正な運用がなされている、との報告があった。(資料参照)

4、2001年度事業計画および予算案について

米沢事務局長より来年度の事業計画および予算案について説明があり、提案どおり了承された。

5、2001年度(第49回大会)大会開催地について

安孫子会長より愛知大学の渡辺会員を中心に東海地区での開催をお願いしたい

6、2002年度（第50回記念大会）について

安孫子会長より再来年の大会は、50回の記念大会であるので早めに準備に取りかかりたい。大会開催地としては、遠野での開催を考えているので、もし大会のお世話を岩本由輝会員にお願いできるならば非常に有り難い、との提案があった。

これを受けて、岩本会員より引き受ける旨の挨拶があった。

7、2001年度の学会事務局について

昨年に引き続き、九州地区の米沢、徳野、古賀の3会員にお願いすることに決定した。